



2025年3月31日

各位

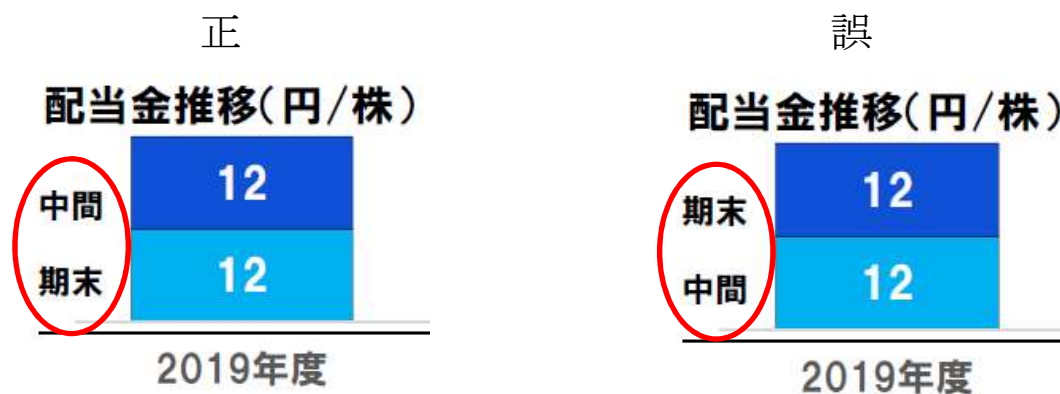
会社名 田岡化学工業株式会社
代表者 取締役社長 佐々木康彰
(コード番号：4113 東証スタンダード市場)
問合せ先 総務人事室部長 松本 直
(TEL 06-7639-7400)

(訂正) 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応についての
お知らせ」の一部訂正について

3月27日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応についてのお知らせ」の資料につきまして、内容に一部誤りがありましたので、訂正することをお知らせいたします。

【訂正箇所】

ファイル7ページ目 棒グラフ 正しくは上段が中間、下段が期末となります。



内容につきましては次頁以降をご参照ください。

以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について

田岡化学工業株式会社

新中期経営計画（2025～2027年度）を5月中旬に公表予定としております。

収益向上に向けた今後の新たな取り組みにつきましては、それと併せて開示いたします。

なお、足元の状況につきましては次頁以降に掲載しておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

(1) 当社の業績の現状

2023年度実績

売上高：285億44百万円(前期比▲16億22百万円)

営業利益：10億74百万円(前期比+6億23百万円)

評価：樹脂原料およびワニスの減収となるも、交易条件の改善や固定費の減少により増益

2024年度業績見通し

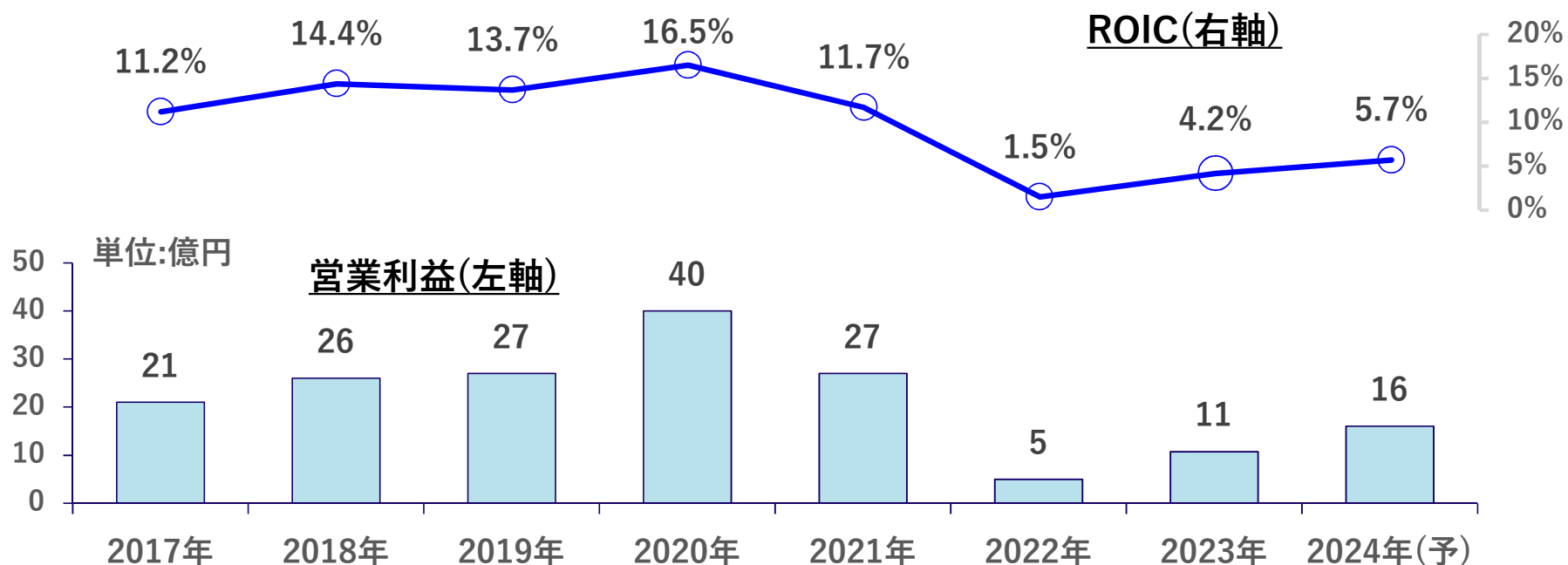
売上高：300億円

営業利益：16億円

評価：概ね当初計画どおりの売上が見込まれる中、交易条件の改善、原価の低減などによる増益を見込む

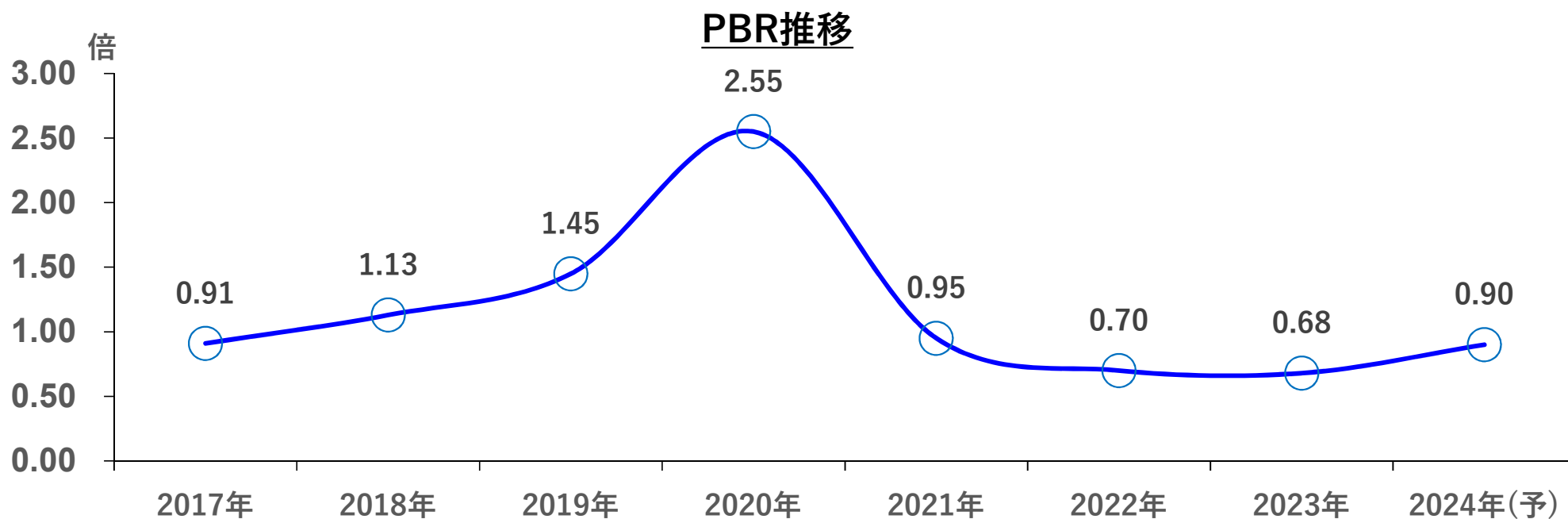
(2) ROICの推移

- 足元の業績回復を受け、2024年度のROICは5.7%程度への改善を見込む
- 当社の資本コストについては、足元では概ね7.0%と推定
- 中長期的にはROIC10%以上を目標とする



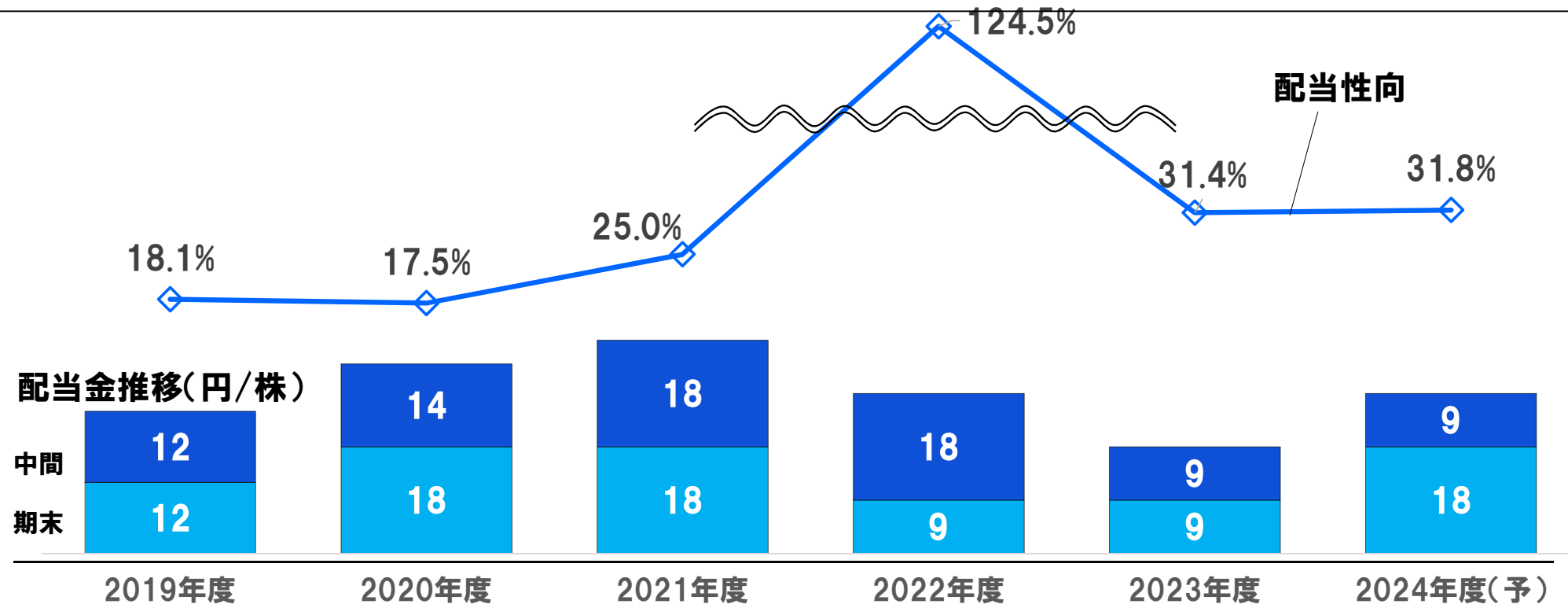
(3) PBRの推移

PBRが2021年から2023年にかけて下落してきたのは、当社の成長性について、株主や投資家からの十分な期待に応えきれないこと等が主たる要因と考える。2024年度は業績改善に伴う株価の上昇を受け、「1.00」倍に近づく見込み。



(4) 配当性向

- 以前から内部留保を確保しながら、株主還元として継続的な配当を実施
- 24年度の配当性向は前年度に続いて30%超を維持する見通し



ご参考

**2024年3月27日に開示しました収益向上に向けた
取り組みについては次頁以降のとおりです。**

(1) 成長戦略・収益改善対策

新規製品の開発・販売

- ✓ これまで蓄積した有機合成技術の知見を活かし、製品開発力を一層強化し、短期間での工業化に取り組む
注力分野（光学樹脂レンズ用モノマー）に関し、顧客と連携しながら市場開拓による用途拡大や高機能化を進め、新規製品の早期上市を目指す
- ✓ ナノグラフェン（NanoPapillon®）の市場開拓
試薬販売を通じて、ICT（情報通信技術）、ライフサイエンス、省エネルギー等の分野での需要開拓

新規受託製造の拡大

- ✓ 農薬、電子材料、機能性材料等の製品に関して受託製造を拡大
- ✓ スピーディーな開発や対応を進めることで、顧客の期待に応える

既存製品の競争力強化

- ✓ 適切な価格政策
- ✓ 合理化、用途拡大による拡販

グローバル経営の推進

- ✓ 海外売上高の増加
- ✓ 海外グループ会社の事業機会の創出

(2) 安定した配当政策

- 経済情勢、当社業績及び将来の成長に向けた投資計画等を総合的に勘案して配当金額を決定
- 利益還元に鑑み、中長期的な安定配当を重視

(3) サステナビリティの取り組み

- サステナビリティ活動を経営基本方針の一つとして、CO2排出削減は勿論、環境負荷全般を低減する努力を着実に継続する
- サステナビリティの取り組みの一端として、次頁の研究開発を進める

(3) サステナビリティの取組み

生分解性可塑剤・バイオマス可塑剤

- 当社はマイクロプラスチック※¹などプラスチックを起因とする社会問題に鑑みて、生分解性※²プラスチック向けの可塑剤※³の開発にいち早く着手
- ラップ、潤滑油用等の可塑剤において、その原料を生物資源に置き換えたバイオマス対応品の開発にも注力し、原油等の化石資源に依存しないカーボンニュートラルへの取組みも推進する

プラスチックのリサイクル

- 資源循環と廃プラスチックの削減を目的として、スマートフォンやタブレット等のカメラレンズを生産する工程で排出される廃材を化学的に分解し、光学樹脂レンズ用モノマーに再活用する研究を推進

SDGsに貢献する高機能絶縁被覆材料の開発

- BEV、HEV、PHEV※⁴等のモーターに使用される高機能絶縁被覆材料（ワニス）の開発・量産化
- BEV、HEV、PHEV等の性能向上に繋がる基幹部材に適した材料であり、駆動モーター等の小型化・軽量化・高出力化に寄与することで温室効果ガス（GHG）の排出削減に貢献

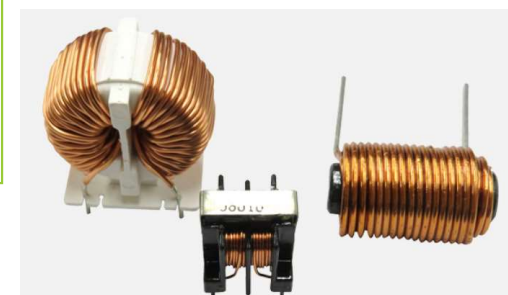
※1. 回収・リサイクルされなかったプラスチックが、太陽光の熱や紫外線、海洋の波のような物理的な力等で一部が細かく砕けた（5ミリ未満）もの。

魚がエサと間違えて食べてしまい、食物連鎖で人体に取り込まれてしまうこと等が懸念されている。

※2. 微生物の働きで二酸化炭素と水に自然に分解される

※3. 樹脂に柔軟性を与えたり、加工しやすくするために添加する剤

※4. BEV：バッテリー式電気自動車、HEV：ハイブリッド車、PHEV：プラグイン・ハイブリッド車



(4) IR/広報の促進等

- ✓ 機関投資家とのミーティングの充実、ホームページでのリリース、統合報告書等の発行を通じて財務・非財務の両面において情報発信に注力
- ✓ 新規製品の立ち上げ、研究開発の進捗を広くステークホルダーに発信